

2014 年度 日本学生オリエンテーリング選手権大会 ミドル・ディスタンス競技部門
関東地区 / 北海道・東北地区代表選手選考会
関東 Ms クラス 複数レーン制・複数コース制実施に関する報告書

2015 年 1 月 26 日
発行責任者 石野夏幹

1.はじめに

近年の関東学連加盟員の増加は、日本学生オリエンテーリング選手権大会の代表選手選考会（以下、セレクションとする。またロング・ディスタンス競技部門のセレクションをロングセレ、ミドル・ディスタンス競技部門のセレクションをミドルセレとする）を運営する際の負担となっております。特に、関東地区男子のセレクション出場人数の多さは、タイムスケジュールを圧迫し、運営面で選択の余地を狭める要因となります。また、今後も加盟員の増加が続けば、従来の形でセレクションを開催することは不可能になるでしょう。

そこで本大会では、「日本学生オリエンテーリング選手権ミドル・ディスタンス競技 関東地区代表選手選考会実施基準」（以下、「ミドルセレ実施基準」とする）に基づき、関東 Ms クラスにおいて複数レーン制・複数コース制（本大会においては、2レーン制・2コース制）を採用しました。

この報告書は、初の試みとなった複数レーン制・複数コース制について、今後議論を行う際の資料とするため、また運営の指針とするため、作成したものです。

2.コースについて

2-1.コース設定の際の注意点

複数レーン制・複数コース制の場合のコース設定に求められる条件は、「ミドルセレ実施基準」では定められていません。しかし、以下の「ミドルセレ実施基準」第 8 条 1 項および第 9 条 3 項より、複数レーン・複数コース制では「コース間でタイム差が開かない」ようなコースの設定が求められると判断できます。

第 8 条 セレクション

1 複数のコースの場合は、第 7 条 2 項によって定められた人数をコースで割り、枠を割り当てる。但し端数がでた場合は残りのもののうちコースに関わらずタイムの速いものを通過とする。（後略）

第 9 条 推薦立候補

3 推薦立候補への関東学連総会の判断の結果、レースで決定していない代表選手枠を満たさなかった場合、若しくは立候補者がなかった場合、セレクションで選考されなかったもののうち順位順に繰り上がるものとする。但し、複数のコースの場合はコースに関わらずタイムの速いものを優先する。

今回のコース設定では、「コース間の類似性」という観点から以下の点に注意しました。

- ① 距離・登距離の差とそのバランス
- ② コントロール数
- ③ 課題の類似性

また、使用頻度の高いトレインであることや他クラスとの兼ね合い上、全く異なるコースではなく、ほぼ同一の回しで十分に(16 コントロールうち 7 コントロールで)パターン振りを行ったコースを設定しました。同一レグは 16 レグ中 5 レグ含まれていました。

さらに、コース設定には主観が多分に含まれていることも考慮して、運営者内で設定したコースの共有、意見交換、必要に応じて修正を行いました。

ただし、コース設定者および運営者内で、複数レーン制・複数コース制において求められる条件(すなわち「コース間でタイム差が開かない」)が十分に検討されたとは言えません。少なくともコース設定者は、複数レーン制・複数コース制に関する規約を十分に把握していなかったこともあり、前述のような「コース間の類似性」については考慮しましたが、「コース間でタイム差が開かない」という観点を十分に持っていたとは言えません。

2-2.問題点

考えられる問題点について。

- ①「コース間でタイム差が開かない」ような複数コースの提供には限界がある

地図上では要求を満たしているように思われるコースでも、試走してみると「どうやらタイム差が出そうだ」という場合は起こりうるでしょう。運営者の負担や参加費の増加を考えると、試走はほとんどが 1 回、多くても 2,3 回が限度でしょうから、仮に要求を満たさなかった場合でも、どこかで妥協しなければなりません。さらに今回の場合、YMOE 様に修正調査を行っていただいたのは大会数日前でしたので、試走と本番とはコースの印象に多少なりの差がありました。植生が変わったことで思わぬルートが現れたりもしました。

- ②「コース間のタイム差」を評価すること自体が難しい

例年、少なくとも 1 回以上は試走を行った上でセレクションが運営されていると思いますが、コース間のタイム差を厳密に計ることは不可能だと思います。また、試走は何回もできるわけではなく、試走に参加する運営者数や他コースの試走などの要因でさらに制限されます。今回の場合、試走は 1 回、参加者は 9 名、関東 Ms1・関東 Ms2 はそれぞれ 2 名ずつ走ったのみで、明らかな差があれば気がついて、1,2 分の違いには気づかなかっただろうと感じました。

2-3.提言

まず、複数レーン制・複数コース制の場合のコース設定に求める条件を「ミドルセレ実施基準」に明記することを提案します。何らかの方針が示されていないと、全く異なるコースが提供されても何も文句が言えなくなってしまう(厳密に条件を出されても困ってしまいますが)。

条件をつくるにあたって、まずその指針となる基準(「ミドルセレ実施基準」第 8 条 1 項および第 9 条 3 項など)から改めてよく議論していただきたいと思います。もし「コース間でタイム差が開かない」ようなコースを基準にするならば、既に問題点で述べたような点についても考慮していただきたいと思います。

3.スタートリスト作成について

3-1.スタートリストに求められる条件

まず 2 レーン制・2 コース制にする場合のスタートリストに求められる条件を確認します。「ミドルセレ実施基準」第 8 条 1 項より

- A.「各コースの学校毎の人数を均等に割り振る」
- B.「各コースの同スタート時刻の選手を抽選により各レーンに割り振る」
- C.「コースの割り振りはレース前には非公開とし、レーンの割り振りのみを公開する」

また、今回はこれに加えて、各コースの選手の実力ができるだけ均等になるように、

D.「今年度日本学生オリエンテーリング選手権大会ロング・ディスタンス競技部門(以下、インカレロングとする)の選手権クラス出場者及び入賞者を各コースに均等に配分する。」

の 4 つの基準により、スタートリストを作成しました。D については直近で一番大きなレースであるということと今年度のインカレロングを選びましたが、ミドルレースという点では前年度の日本学生オリエンテーリング選手権大会ミドル・ディスタンス競技部門(以下、インカレミドルとする)の方が説得力があるなど、どのレースをどのように基準とするかは一考の余地があると思います。

さらに、出走レーンとコースが異なり、適切に地図を渡す必要があるため、地図の裏に選手の名前、大学名などを印刷して地図の渡し間違いのないようにしました。

3-2.問題点

具体的な作業手順は割愛しますが、基本的なエクセルの技術があれば作成することは可能です。私の場合はスタートリストの作成に慣れていたので、4~5 時間程度でひとまずは完成しました。しかし上記 A~D の基準のそれぞれについて 1 回の手順で済む訳ではないので、作業手順は長く複雑になり、変更が出た時やミスが発覚した時に修正するのが大変でした。1 ヶ所を変更すると全手順について変更するのですが、その途中で他の部分にも影響が及んだ場合はそちらも修正し、出来た結果にミスや矛盾がないかまた確認する、といった具合です。この過程での修正ミスがとても危険だと感じました。

つまり、今回の方法には「技術的には難しいことではないが、ミスの可能性が高くなる」という特徴があるといえます。

3-3.提言

今後のセレクションの形を考えるには、上記の特徴と近年の加盟員が増えている状況を総合的に考える必要があります。改めて、スタートリスト作成の面から見たメリット・デメリットを整理します。

①1レーン制の場合

メリット:運営の準備が簡単

デメリット:時間が厳しい(参加者が多い、開催地が遠い場合)

②2レーン・2コース制の場合

メリット:時間に余裕ができる

デメリット:準備が煩雑になり、ミスを誘発しやすい

簡単に言ってしまうと、スタートリストに関しては「時間の余裕を取るか、ミスの起こりにくさを取るか」という問題となります。もちろんこれにさらにコースやレーンの制約が加わってくるので、これだけでどちらが良いかとは言えません。

また、今回は「ミドルセレ実施基準」の要求からさらに各コースの選手の実力ができるだけ均等になるようにインカレロングの結果を参考にしましたが(上記Dの基準)、これをなくせば手順は大きく減り、ミスの起こりやすさは減ると考えられます。その場合、どちらのコースに振り分けられるかがランダムであることによって公平性は担保されますが、できるだけ実力以外の要素を排除して実力のある選手を選ぶためには、何かしらの形で各コースの選手の実力が均等になるようにすることが望ましいと言えるでしょう。これは「ミドルセレ実施基準」に付け加えても良いかもしれません。

4.その他規約に関する提言

ここでは、2・3 で出た提言以外に、今後複数レーン制や複数コース制を実施するにあたって「ミドルセレ実施基準」の穴となる部分について提言します。

① 第9条において、複数コースの際、推薦人数を各コースへ如何に割り振るかについて定められていない。

② ①に関連して、第7条2において、推薦枠は「地区学連枠の1/10」で「小数点以下は切り捨て」・「決定すべき代表者枠が10名以下の場合は推薦立候補による通過枠を1つ用意」となっている。つまりこの規約では、複数コースに分ける以前に推薦枠の数を決定するため、推薦枠が一コースあたり一つ以上ない可能性が生じる。

以上二点以外にも、運営者が発見出来ていない穴がまだあるものと思われます。併せて「日本学生オリエンテーリング選手権ミドル・ディスタンス競技関東地区代表選手選考会に伴う推薦立候補に係る規約」を見直す必要もあるでしょう。もう一度、学連加盟員による規約の精査をお願いしたいと考えます。

また現在ロングセレにおいては、複数コース制は認められておりませんが、バタフライループによる複数レーン制は認められております。「日本学生オリエンテーリング選手権ロング・ディスタンス競技関東地区代表選手選考会実施基準」や「日本学生オリエンテーリング選手権ロング・ディスタンス競技関東地区代表選手選考会に伴う推薦立候補に係る規約」においても、複数レーン制を実施するのに適した形に規約を改めていく必要があるのではないかと考えております。今回のミドルセレの参加

人数に鑑みると、来年度のロングセレで複数レーン制実施が必要となる可能性は高いでしょう。急ですが、年度内には複数レーン制実施が可能となる状態にさせていただきたいと考えています。

※今回の問題と直接関係はありませんが、「ミドルセレ実施基準」に何点か誤記と見られる文言を発見したため、訂正を要望します。第 8 条 3 項中の「第 8 条」は「第 9 条」、第 9 条 2 項中の「第 8 条 4 項」は「第 8 条 3 項」、第 15 条 1 項中の「第 8 条 3 項」は「第 9 条 3 項」の誤りではないかと思われます。

5.お詫び

推薦枠分の繰り上がり措置について、大会後に多少混乱が見られました。

本大会のプログラムにおいて、繰り上がりに関する文言は、5 頁に「ただし、推薦による代表者数が上記定数に満たなかった場合、本大会の選考クラスにおける競技結果の上位者から順に繰り上がるものとします」と記載があるのみで、不明瞭であったことは否めません。

運営者の規約に対する理解の浅さからこのような混乱を招き、深くお詫び申し上げる次第です。

但し、「ミドルセレ実施基準」第 15 条 1 には、「代表選手の認定作業において誤りがあった場合、幹事会はその発覚までになされた手続き・発表等の如何に関わらず、この規約およびセレクションレースの結果のみに基づいて対処しなければならない」とあるため、今回の関東学連による最終的な処置は適当であると考えます。どうかご理解頂ければ幸いです。

6.おわりに

総括すると、2の「コース間でタイム差が開かない」コースと3の「各コースの選手の実力が均等になるようにする」措置について、規約でどのように定めるかという問題が主たるものになります。

これは、「ミドルセレ実施基準」第 9 条 3 の、推薦枠分の繰り上げ措置について、どのように規約で定めるかにも関わってくる問題です。「コースに関係なくタイム順で繰り上げる」か「コース毎に均等な人数を繰り上げる」かは、「コース間でタイム差が開かない」コースと「各コースの選手の実力が均等になるようにする」措置のどちらが行い易いかによるでしょう。前者の措置は、テレーン事情に大きく制約を受けることが予想されます。また後者の措置は、推薦枠に関係なく、複数コース制を取る以上必要です。つまり後者の措置の方が、比較的行き易かつ必須の措置でしょう。この点を考慮した上で、第 9 条 3 についても、もう一度議論していただきたいと考えています。

現在、関東学連のセレクションは過渡期にあります。より良いセレクションにしていくために、この報告書も活用しつつ、今後各大学や学連総会でセレクションの実施形態に関する議論を重ねていってほしいと考えています。